

# 『M2M・ビッグデータWG』 活動計画書

日本電気株式会社

## 1. WGの概要

### 目標

新たなICT社会の基盤となるM2Mと、それらの基盤から収集される様々な情報、各省庁・自治体等の情報を活用したビッグデータによるサービスを実現する上での共通課題を検討・抽出し、M2Mとビッグデータのシステムとサービスを実現するためのモデルを明確にする。

### 課題認識

M2Mの市場での活用と、ビッグデータを構成する様々な情報の活用の中での情報の著作権、セキュリティを含む制度面、情報の公開・開示、クラウド間での情報交換の仕組みと人材育成の要件や課題に関して、本格的な議論ができていない。

### 具体的検討項目

#### STEP1: 情報収集

M2M・ビッグデータに取り組んでいる企業・各種団体から、現在と将来において想定される課題や問題をヒヤリングすると共に公開されている情報を収集

#### STEP2: 課題検討

様々な領域の情報からM2M・ビッグデータを構築する際の課題や問題を抽出し、それを解決するためのガイドラインを検討

#### STEP3: 具体化

ガイドラインの作成とそれに沿った大学等の研究機関と連携した実証実験を実施

### 導入効果（目標）

今後のM2M・ビッグデータでの課題や問題を規則・制度面(セキュリティ含む)、システム面、技術面と人材面等の多方面から検討することで、様々な領域でのM2M・ビッグデータの実現を加速することができる。

## 2. WGの詳細

### 関連要素技術、サービス、システム

省電力無線方式、M2Mデバイスインタフェース、NoSQL、Hadoop、DHW(Data Ware House)、CEP(Complex Event Processing)、MDM(Master Data Management)、PPDM(Privacy Preserving Data Mining)、クラウドサービス

### グローバル化関連

様々な業態で利用が想定されているM2M・ビッグデータの活用の仕組みを構築し、国内のスマートな社会(ICT街づくり)創りを加速していく中で、日本発のM2M・ビッグデータモデルを確立しグローバルへ展開する。

### 実施体制、役割分担

幹事

日本電気株式会社

事務局

(もし使う場合シンクタンク等)

メンバー

(参加企業、団体の条件等)

※各省庁でデータを公開を検討している部署

### 対政府要望①：予算、税制支援等

M2M・ビッグデータの推進のために必要と考えられる支援等については、今後のWG活動にて検討していく予定。

### 対政府対応②：制度、規制緩和等

省庁、自治体が保持している情報の公開に向けた条件の整理に支援をお願いしたい。

実証実験を実施するM2M・ビッグデータ活用特区の選定をお願いしたい。

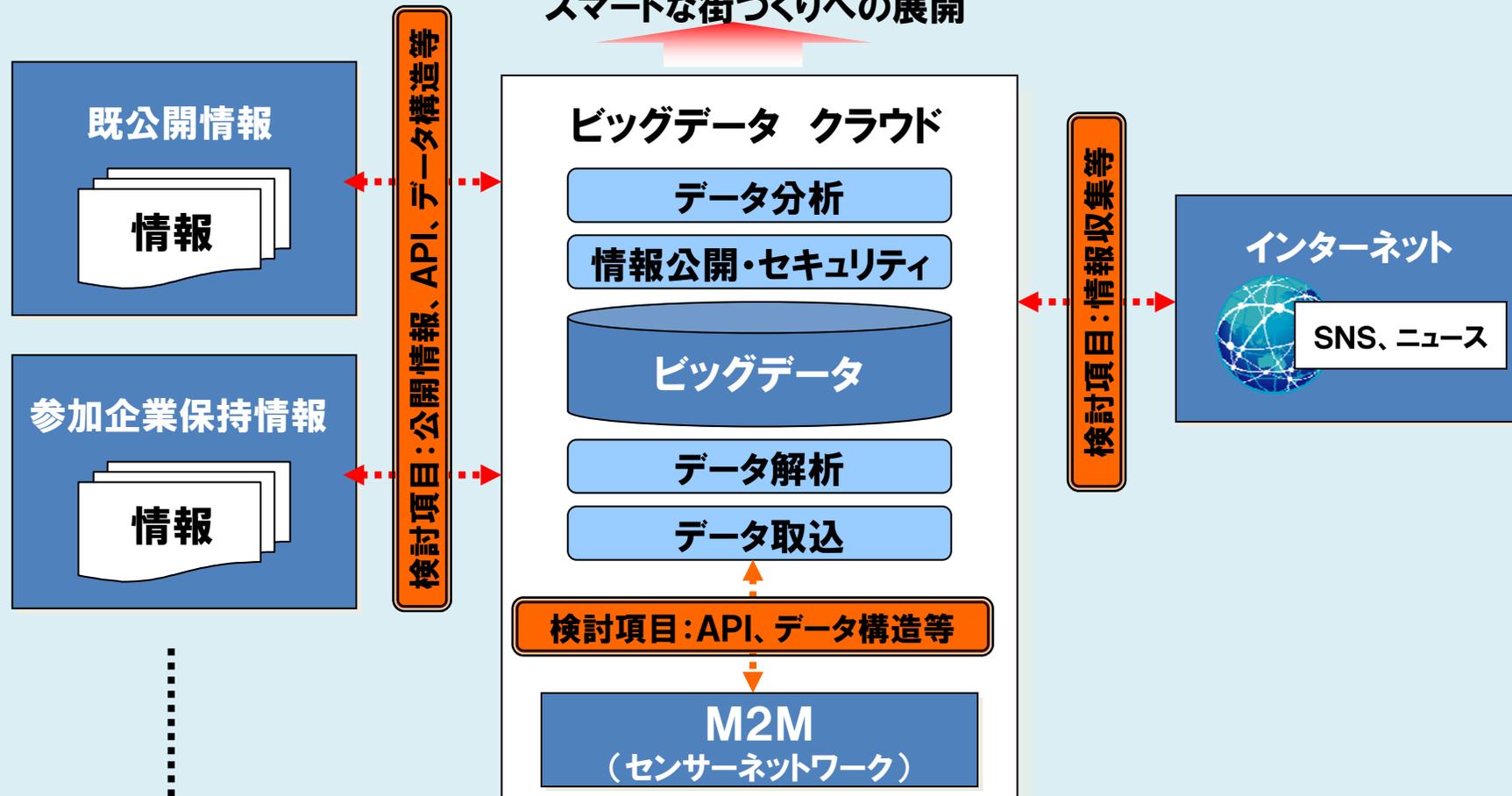
それ以外に必要な支援等については、今後のWG活動にて検討していく予定。

### 3. ゴールイメージ

#### 全体像

新たなICT社会の基盤となるM2Mと、それらの基盤から収集される様々な情報、各省庁・自治体等の情報を活用したビッグデータによるサービスを実現する上での共通課題の検討・抽出し、M2Mとビッグデータのシステムとサービスを実現するためのモデルを検討する。

#### スマートな街づくりへの展開



4. スケジュール

